

## 協働事業提案一覧

( 9 番、 10 番は辞退 )

番号	提案事業名	グループ	提案の 類型	協働事業と して進める べき	仕組みの検 討を協働事 業として進 めるべき
1	いざという時のお隣近所	D	事業型		
2	コミュニケーション支援事業	B	仕組み型		
3	子どもたちの暮らしやすい地域創り	B	仕組み型		
4	高齢者、障害者、病弱者などの在宅生活を支援する事業	B	仕組み型		
5	「市民による市民の為の市民が作るウェブサイト」	C	事業型		
6	生ゴミ分別回収事業	D	政策提案型		
7	相模大塚駅に行列のできる店をオープンさせる事業	D	政策提案型		
8	悪い大人に負けないための法律講座	A	事業型		
11	CAP プログラム ( 子どもへの暴力防止プログラム ) 提供事業	A	事業型		
12	ホームファーマー制度を支援し、「地産地消」「有機農業」を推進するための基盤整備	C	仕組み型		
13	大和市男女共同参画に関する市民意識調査	E	事業型		
14	市民主体の ( 仮称 ) 市民活動センター運営事業	E	事業型		

協働事業として進めるべきとした提案は7件で、内訳は事業型5件、仕組み型2件である。

提案の類型については、5ページ参照。

グループの担当推進委員は次のとおり ( 敬称略 )

A ( 学校関係の提案 )	内海麻利、清水和男、平塚恵一、百瀬比奈子
B ( 地域社会福祉に関する提案 )	宇津木朋子、岡島順子、小杉皓男、林泰義
C ( ITに関する提案 )	内田俊、内田哲世
D ( 地域の連携に関する提案 )	池本薫、伊藤健司、小林敏興、中村一夫
E ( 行政提案 )	河崎民子、熊谷薫、藤田高恵、渡辺精子

1. 事業名	<b>いざという時のお隣り近所</b>					
2. 提案者	やまと災害ボランティアネットワーク					
3. 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係が希薄になって来ている中、災害・事故・事件を少しでも“互助力”をつける方法を身につける。</li> <li>・自助努力・互助努力そして公助を待つ力</li> <li>・闘う市民力（ボランティアとしてではなく一人の人間として何が必要か、何が出来るか。）</li> </ul>					
4. 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の班単位程度の人達を個人宅又は自治会館等に集まって頂き、防災・被害を最小限にする為の方法や準備しておくの良い物・事を皆さんと共に考え、共有し、日ごろの心がけを大切に頂ける様、意識が高まる様働きかけをしたい。</li> <li>夜7時～ 又は土・日等で2時間程度の集まりを各地域をまわっての活動を希望しています。</li> <li>（既に 4/30（金）に、南林間、平原宅にて一回目の企画を行動に移してみました。）</li> </ul>					
5. 市に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なパンフ等参考になるものをいただきたい</li> <li>・出来ればスタッフとして同行して頂きたい</li> <li>・ネットワーク主催啓発活動への防災協力員の動員</li> <li>・啓発活動企画に当たっての助言</li> <li>・啓発活動の広報</li> <li>・啓発活動の物資、機材提供への協力</li> </ul>					
公開 検討会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める 必要がある	実現すること が難しい	その他(検討すべき内容を含む)
	事業提案者					
	協働対象者					防災対策課
	担当推進委員	中村、小林 池本				
7. コメント	<p>【協働対象者】 現状の協働については今まで通り協力していきたい。 自主防災組織については消防と連携しながら防災意識の向上に努めていきたい。(防災対策課)</p> <p>【担当推進委員】 少しでも協働できる場所があればそこから始めていくべき。(中村)</p>					
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過日の福井県や新潟県の豪雨災害をみても、身近な地域における日頃からの防災意識啓発は重要であること、又、災害ボランティアネットワークの活動は全国的にみても珍しく、大和市にとっては貴重な社会資源と思われることから、できるところから協働事業として進めるべきである。</li> <li>・災害ボランティアネットワークとのこれまでの協働の実績を踏まえ、担当課も前向きに協働事業となるような方法を考えるべきである。</li> </ul>					
9. 具体的に検討を要請する事項	<p>現在の協働関係をさらに発展させ、身近な地域での日頃からの防災意識啓発活動を協働事業として進めるとともに、次の点について検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害ボランティアネットワークと防災協力員とが連携できるしくみづくり</li> </ul>					

1. 事業名	<b>コミュニケーション支援事業</b>				
2. 提案者	NPO 法人カウンセリングコミュニケーションサポートセンター				
3. 事業の目的	本会は、地域市民に対するカウンセリングスキルに関する支援を中心に、一人ひとりのコミュニケーション能力の向上とリレーションシップ作りに寄与するため、カウンセリングの研修、子育て支援に関する事業等を行い、地域コミュニティ全体の利益の増進に寄与することを目的とする。				
4. 事業の内容	<p>子育て、心育て運動の展開 PTA、大和市内80ヶ所の老人クラブへの働きかけ、読み聞かせのグループへの協力（地域ぐるみの運動に）</p> <p>[具体的に] 『読み聞かせと語りの夕べ（ひととき）』 子育て・心育て運動実行委員会 &lt;第一部&gt; 「基調講演と朗読」 ex. 長岡輝子氏（96才） &lt;第二部&gt; 出場者、参加者による朗読と語り メインに誰か 司会、進行、コーディネーター etc. ゲストなど数人</p> <p>出場者・参加者募集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじいちゃん、おばあちゃん、語りませんか？ お里言葉で、お里訛りで、お里の話を、お孫さんに聞かせたい話を</li> <li>・お父さん、お母さん、読み聞かせやりませんか？ご自分が聞いた話を、お子さんに聞かせたい話を 語ってみませんか？ 読んでみませんか？ 話してみませんか？</li> </ul>				
5. 市に期待すること	<p>(1) 企画に対するアドバイス (2) 共同運営 (3) 宣伝、広報活動 (4) 会場などの運営上の相談</p>				
公開 検討 会	6. 検討内容 (評価結果)				
		実現性が高い	熟度を高める 必要がある	実現すること が難しい	その他(検討すべき内容を含む)
	事業提案者				
	協働対象者				市民活動課
	担当推進委員		宇津木、 小杉、岡島		林

7. コメント	<p>【事業提案者】 事業提案の仕方がよくわからなかったので、今後どのようにすすめていいか、考えていきたい。</p> <p>【協働対象者】 市の制度の情報提供させていただく。今日の提案内容については内容を検討させていただく。(担当課の整理) (市民活動課)</p> <p>【担当推進委員】 縦割り部署という宿命的システムのなかでどの課と切り結ぶかを追求したい。(小杉) 子どもたちの心のケアがとても大事になっている時代です。そのために子どもたちと関る大人(親も含めて)に対して色々、カウンセリング講座や研修の場を設けたり、相談にのったりは大切な事業だと思います。今回の協働事業ではどの点でどのようにしたいのか是非具体的に提案していただきたいと思いますが、(基金や補助金の利用、共催、後援)現在ご提案の講座費の負担やPR、会場の利用は協働でなくてもできることです。更なる、協働でないといけないことを提案していただきたいと期待します。(岡島) 行政の役割、市民活動団体の役割を整理していくことが必要。(宇津木) 提起されている問題を行動に移すための討議の場、機会を協働で起こせないか。(林)</p>
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーション能力の不足が様々な社会問題を引き起こしている要因であり、コミュニケーション能力を高める取組みが必要という、提案の趣旨は理解されるし、重要なテーマだと考える。</li> <li>・ しかし、現時点では、市民事業として実績を積み重ねる中で、行政との協働事業にする必要性を整理していただきたい。</li> <li>・ 市民活動推進補助金などの制度の活用も可能と考える。</li> <li>・ なお、本提案は行政の新たな仕組みを提案する内容と考えられる。</li> </ul>
9. 具体的に検討を要請する事項	<p>市民事業として進めていくにあたり、次の点について検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民事業としての活動を支援する制度に関する情報の提供</li> </ul> <p>あわせて仕組み型の提案として受け止め、次の点について検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提案者が提起する問題について、新しい事業の仕組みを検討する場を協働事業とすること</li> </ul>

3

類型：仕組み型	協働事業として 進めるべき提案
---------	--------------------

1. 事業名	<b>子どもたちの暮らしやすい地域創り（心のかけはし）</b>					
2. 提案者	NPO法人地域家族しんちゃんハウス					
3. 事業の目的	<p>バリアフリー・インクルージョンの社会を目指し、赤ちゃんからお年寄りまでが笑顔で暮らせる地域まちづくり。社会現象で表れている、不登校・ひきこもり・虐待・事件などのマイナスストロークを受け止められるだけの地域力をつけたい。全てを受容して暮らせる町づくりを目指す。</p> <p>「自然の中での子育て。子育ては孫が20歳になるまで」をスローガンに。</p>					
4. 事業の内容	<p>= 親たちによる親たちの幼児教育の活動 =</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親が見守り応援できる環境づくり。それが子どもが最もよく能力を伸ばすことのできる環境である。子どもも大人も楽しみながら共に成長していくことを目指し0歳～小学校入学前の子どもに「自分で選ぶ遊び」を！親には「親のための学習コース」を提供し、子どもと大人の両方を支援する。</li> <li>自然の森がある場を確保したい。自然から学ぶ重要性、そして全てを教えてくれることを！学習のテキストとしてプレイセンター（ニュージーランド50年の歴史も持つプログラム）のものを使用し互いに学び合いながら行う。</li> <li>現在子育て支援センターのお手伝いをしているプログラムの中に子どもと母が学べる遊びの導入（自然たくさん・音遊び・閉ざされた空間ではなく家庭や地域と広がりをもったもの）する</li> </ul>					
5. 市に期待すること	縦割り行政に終始するのではなく、公園管理課やみどりのまちづくり振興財団などと手を組み理解に努めてほしい。生涯学習センター・市民活動課の手助けも借りたい。出産された親子には情報として流してほしい。					
公開 検討 会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める 必要がある	実現することが 難しい	その他(検討す べき内容を含む)
		事業提案者				
		協働対象者				児童育成課
		担当推進委員		宇津木、 小杉、岡島		林
	7. コメント	<p><b>【協働対象者】</b> ニコニコ広場のボランティア活動をしているが、その中で提案者の思いを広げていてもらいたい。(児童育成課) 子育て支援センターでボランティアしている内容が協働事業となるのか。(児童育成課)</p> <p><b>【担当推進委員】</b> たとえば市水と緑課と組んで具体的な子どもの遊び場としての「森」にカリキュラムを提案するとか。(小杉) 事業名通り子どもたちが暮らしやすくするために、自然の中での外遊び、手作りの自然を素材とした遊具も含めて、賛同します。それらを実現するための地域づくりをどうするか、他の自然大学などNPOなど、市民や市民団体との連携をどうしながら保証していくか具体的に行政と協働しながら企画、考案し、システムづくりをしてほしい。(岡島) しんちゃんハウスの提起している問題を行政としても一緒に考える協働方式を開発したい。(林)</p>				

* 公開検討会後の経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市水と緑課では、市民から寄贈された緑地について「(仮称)宇都宮記念公園」を計画しており、整備内容について、8月からワークショップによる市民参加で検討を進めている。間接的に提案者の想いを実現できる可能性があり、第1回のワークショップに提案者も参加した。</li> </ul>
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案者が提起している自然環境の中での子育ては、事業というより基本的な仕組みづくりに関する内容であると考える。</li> <li>・市では公園づくりなどでワークショップの手法を取り入れているが、単に市民の意見集約だけでなく、ワークショップ自体を市民と一緒に運営させていく形に発展させていただきたい。</li> <li>・提案者には、子育て支援センターや公園づくりワークショップの現場での活動の中から、より具体的な提案につなげていただきたい。</li> </ul>
9. 具体的に検討を要請する事項	<p>仕組み型の提案として、次の点について検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップの企画運営を協働事業としてくこと</li> <li>・「自然環境の中での子育ての仕組みづくり」を市民と一緒に検討する場を協働事業とすること</li> </ul>

1. 事業名	<b>高齢者、障害者、病弱者などの在宅生活を支援する事業</b>					
2. 提案者	NPO法人 ワーカーズ・コレクティブ想					
3. 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者、障害者、病弱者などの在宅生活を支援する</li> <li>・ 困った時にお互いに助け合っていくことのできる豊かな地域社会作りを推進する。</li> </ul>					
4. 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家事サービス（調理、洗濯、掃除、買い物等）</li> <li>・ 介護サービス（外出介助、入浴介助、清拭、オムツ交換等）</li> <li>・ 子守、保育園の送迎（ひとり親家庭、両親の病気の時、その他）</li> <li>・ 病院関係（病院への付き添い、入退院の手続き、日用品の補給、買い物、食事介助、身の回りのお世話、見守り等）</li> <li>・ お花見、お墓参り、友人宅の訪問などの同行</li> <li>・ 困った時にご相談ください</li> </ul>					
5. 市に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 想の目的、内容等をアピールして欲しい。</li> </ul>					
公開 検討 会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める 必要がある	実現すること が難しい	その他(検討す べき内容を含む)
		事業提案者				
		協働対象者				市民活動課
		担当推進委員		宇津木、 小杉、岡島		林
	7. コメント	<p>【協働対象者】 具体化に向け一緒に考えていきたい。(市民活動課)</p> <p>【担当推進委員】 行政のシステムからの発想の隙間。もっと生活に根ざした、役立つ方策をカリキュラム化する手があるかもしれない。(小杉) 協働できる事がたくさんある分野です。頑張ってください。(岡島) 行政が実施している事業の質を高めるために協働の機会、場をつくる方式を考えたい!(林)</p>				
8. 協働推進会議 の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提案者の家事介護サービス事業は、行政の隙間をうめる事業であり、自立した団体として新しい公共を担っているといえる。</li> <li>・ 多様な活動の実績を踏まえ、仕組みづくりも含め何が協働できるか再度提案していただきたい。</li> <li>・ 培ったノウハウを活かし、今後設置される市民活動センターを支えていただきたい。</li> </ul>					
9. 具体的に検討 を要請する 事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提案者が熟度を高めていくために次の点を検討いただきたい。</li> <li>・ 提案者の再提案に向けた支援</li> </ul>					

1. 事業名	「市民による市民の為の市民が作るウェブサイト」					
2. 提案者	友部 浩					
3. 事業の目的	<p>現在行政や企業発信の「IT 情報プラン」は活発に計画され実績も積んできたと思うが市民による市民の為の情報プランはこれまであまり見ないように思う。それは IT 技術というものが時間、地域を越えるメディアという一面から成せることではあったと思う。</p> <p>しかし地域の中にあっても地域のコミュニケーション手段としても使えるのではないかと考える。そこで私は市民や中小、個人商店が使い易い、地域に密着した市民のためのウェブサイトを是非立ち上げてみたい。</p>					
4. 事業の内容	<p>地域版「yahoo」や「Excite」を目指すということになります。具体的には「活動予定」に書いたとおりです。しかし他のサイトと違うところは「市民参加型」だという点です。みんなの意見や希望で作っていくのでどこに行くか危ういところもありますがどんな自由ですばらしい発想が生まれるかもしれません。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1,000 円/時間パソコン講習会</li> <li>1,000 円/月チラシ</li> <li>ウェブサイト商店街</li> <li>地域自治ネットワーク</li> <li>コミュニティビジネスネットワーク</li> </ol>					
5. 市に期待すること	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. IT の技術的アドバイス</li> <li>2. 市民が希望する公共の情報発信</li> <li>3. IT 勉強会、講習会などの場所の提供</li> </ol>					
公開 検討 会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める 必要がある	実現すること が難しい	その他(検討す べき内容を含む)
	事業提案者					
	協働対象者					情報政策課 市民活動課
	担当推進委員			内田(俊)		内田(哲)
7. コメント	<p>【協働対象者】</p> <p>既存のシステムとして「どこでもコミュニティ」「ラブス」があるが、コーディネート機能などを加えていくという改善ではどうかとの話し合いはあった。提案者はあくまで独自のホームページを作りたいということだったので協働の内容が見つけられなかった。(情報政策課)</p> <p>市民活動センターの運営への参画により、想いの一端を実現していただきたい。(市民活動課)</p> <p>【担当推進委員】</p> <p>思いを尊重したいと考えている。市民のホームページはコミュニティビジネスにもなりうる、拠点にも積極的に参加してもらいたい。(内田哲世)</p>					
8. 協働推進会議 の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案の内容は、行政との協働より、市民・市民団体・事業者との協働の方がふさわしいと考えることから、市民同士の連携の可能性を探っていただきたい。</li> <li>・提案者は既に市民活動センターの運営への参画されており、当該活動を通して市民同士の連携のきっかけとしていただきたい。</li> </ul>					
9. 具体的に検討 を要請する 事項	<p>提案の主旨を踏まえ、次の点について検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の目線に立った情報提供のあり方</li> <li>・市民同士の連携を図っていくための支援</li> </ul>					



1. 事業名	<b>生ゴミ分別回収事業</b>					
2. 提案者	松井 昭治					
3. 事業の目的	家庭及び事業者から排出される生ゴミの分別回収及びたい肥化					
4. 事業の内容	家庭及び事業者からの排出生ゴミを有料で回収、たい肥化して販売する。 特に事業者からは有料とする。 先ずある地区を限定し、プロジェクトチームを作り3年を目途に実施、その後拡大する。					
5. 市に期待すること	前向きに考えること。 実行力。					
公開 検討会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める 必要がある	実現することが 難しい	その他(検討す べき内容を含む)
		事業提案者				
		協働対象者		環境総務課		
		担当推進委員		池本、小林		中村
	7. コメント	<p>【協働対象者】 協働事業(実施済)「資源分別回収」の品目として「生ゴミ」の検討を進める(現在も検討中) (環境総務課)</p> <p>【担当推進委員】 現在分別ゴミということで協働してやっている形になっている。それを生ゴミもやればよいと思う。 試算については数字をもっと具体的につめていく必要性はある。 重要な問題なので是非、進めていきたい。市民にももっとゴミのことを考えてもらいたい。(小林) 協働事業というよりはむしろ政策提案で(中村)</p>				
8. 協働推進会議 の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ処理は重要な環境政策であり、本提案は貴重な政策提案と受け止める。</li> <li>・提案者には、モデル地区のプロジェクトを含めた、より完成度の高い政策提案を期待する。</li> <li>・生ごみの分別は、民間でのコミュニティ・ビジネスの可能性もあると考える。</li> </ul>					
9. 具体的に検討 を要請する 事項	<p>政策提案として、次の点について提示いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の環境政策の中での、生ごみの分別処理の考え方</li> </ul>					

1. 事業名	<b>相模大塚駅に行列のできる店をオープンさせる事業</b>					
2. 提案者	桜森自治会					
3. 事業の目的	相模大塚駅南側を活性化させるためにオープンまでのソフト面について諸事業を開発し、進出する企業を誘致する。					
4. 事業の内容	<p>相模大塚駅南側に現在空き地となっている土地（相模鉄道（株）社有地）約250坪の有効利用</p> <p>具体案として提案</p> <p>第1案・・・電車型のオープンカフェでコミュニティ・カフェ型のショップ（公共的）</p> <p>第2案・・・相模鉄道（株）側で建設されたビルに新企画の市立幼児保育施設（ビルのワンフロアの賃貸）</p> <p>第3案・・・緊急医療施設（人工透析施設）</p> <p>第4案・・・児童館等備えた総合会館</p>					
5. 市に期待すること	相模鉄道（株）に土地の提供又は、電車の無料貸し出し等の交渉と駅ビル建設の開発促進					
公開 検討 会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める 必要がある	実現すること が難しい	その他(検討す べき内容を含む)
		事業提案者				
		協働対象者		産業振興課		都市整備課
		担当推進委員		池本、小林、 中村		
	7. コメント	<p>【協働対象者】 街づくりの一環としてのソフト(計画づくり)の協働は街づくり条例の仕組みの中で行っていきたい。(都市整備課) 相模大塚まちづくり協議会の依頼があれば参画協力したい。(産業振興課)</p> <p>【担当推進委員】 まちづくり協議会がつくった構想がすでにある。ここには公共的な施設を設けると書いてある。計画があるにもかかわらず市がやらないということに問題がある。 住民が集うことができるような賑わいゾーンができるようにソフト面でもっと市と知恵を絞って考えていくようにしてもらいたい。 是非協働してやってもらいたい。(池本)</p>				
8. 協働推進会議 の意見	・本提案は、10年以上先の実現を目指す長期的な街づくりではなく、地域の未利用地の暫定利用を工夫するという新しい視点の提案と受け止められることから、政策提案型の提案と考える。					
9. 具体的に検討 を要請する 事項	<p>政策提案として、次の点について検討いただきたい。</p> <p>・市の街づくり政策の中で、相模大塚駅南側の活性化のための当該未利用地の暫定利用計画づくり。</p>					

1. 事業名	<b>悪い大人に負けないための法律講座</b>					
2. 提案者	神奈川県行政書士会 大和・綾瀬支部					
3. 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の（小）中学生のかかえる法的問題を共有する。</li> <li>・市内の（小）中学生に最低知っておくべき法的知識を提供する。</li> <li>・弱年層を「食い物」にしようとしている大人たちに対抗する法的予防措置を講じる。</li> </ul>					
4. 事業の内容	<p>1) 市内の（小）中学校に出前で、「法律講座」を行う。 （月1回程度）</p> <p>2) 各校の文化祭等の行事で特別講演を行う。</p> <p>3) 学校当局との協力のもとに、個別の相談を受ける。</p> <p>4) 生徒と共に身近な法的問題についての学習・研究を行う。</p>					
5. 市に期待すること	<p>1) 市内の（小）中学校との調整</p> <p>2) 「広報やまと」、「ホームページ」等での広報活動</p>					
公開 検討 会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める 必要がある	実現すること が難しい	その他(検討す べき内容を含む)
	事業提案者					
	協働対象者	青少年 センター		指導室		
	担当推進委員	清水、内海、 平塚、百瀬				
7. コメント	<p>【協働対象者】 学校教育は学習指導要領に基づいて行うということが前提。具体的にどのようにカリキュラムに組み入れるのかの権限は学校長にある。(指導室) 主旨は理解できるのでこれから学校に紹介していくことで対応したい。(指導室) 子ども会連絡協議会の事務局として関わっていききたい。(青少年センター)</p> <p>【担当推進委員】 出前授業を繰り返しながら「子どもの人権」という意識を育てあげていきたい。(平塚) 文科省の提唱する「生きる力」の養成のためにあるような企画なので是非推進していきたいし、この企画ですでに実現性は高いと思う。(百瀬)</p>					
8. 協働推進会議 の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを取り巻く社会状況から法律講座を実施することは意義があると考えることから、協働事業として進めるべきである。</li> <li>・協働対象者は、各学校や地区子ども会であるが、協働事業実現のために教育委員会としても後押ししてほしい。</li> </ul>					
9. 具体的に検討 を要請する 事項	<p>協働事業として推進するため、次の点について検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育、社会教育それぞれの現場で事業化するための支援（学校長、子ども会連絡協議会への紹介など）</li> </ul>					

1. 事業名	<b>CAP プログラム(子どもへの暴力防止プログラム) 提供事業</b>					
2. 提案者	NPO法人やまとCAPひまわり					
3. 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに、さまざまな暴力に対応するための力(問題解決力)をつける。</li> <li>・子どもの人権が尊重されるコミュニティ(地域)づくり。 大人へのプログラムを親や教職員、地域の大人たちへ提供することでエンパワメント(子どもは大人が守るべき弱い存在だとみるのではなく、不安で困難な状況にも、子ども自身の問題を解決する力を信じ、その力を引き出す)、人権意識などの考えや暴力に対する知識、情報、技術などを大人同士が共有し、互いに助け合う地域を作って、子ども本来の力が発揮出来る様に地域全体で子どもたちをサポートしていけるようにします。</li> </ul>					
4. 事業の内容	<p>市内小学校、中学校に、大人ワークショップ(教職員ワークショップ、保護者ワークショップ)と子どもワークショップを開催する。(添付資料「CAPプログラムの基本」参照)</p> <p>1) 大人ワークショップ(約2時間) 人数の制限なし</p> <p>2) 子どもワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校(2時限) 40名(1クラス)まで</li> <li>・中学校(2時限×2日間) 40名(1クラス)まで</li> </ul> <p>子どもワークショップは、必ず大人ワークショップを開催しないとできません。なお、大人ワークショップは、単独で開催できます。</p> <p>1学校全学年全クラスで一定期間にワークショップを実施するのが最も効果的である。全校の子どもと大人がCAPのメッセージを共有することで、学校、家庭、地域で起こる様々な問題解決に大きな効果をもたらしてきた。</p>					
5. 市に期待すること	<p>1) 学校でのCAPプログラム提供事業の開催</p> <p>2) 市民、地域の諸団体(民生委員、自治会、地区社協、青少年指導委員等)への働きかけ。</p> <p>3) 資金援助</p>					
公開 検討 会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める 必要がある	実現すること が難しい	その他(検討す べき内容を含む)
	事業提案者					
	協働対象者		指導室			
	担当推進委員	平塚、百瀬、 内海				清水
7. コメント	<p>【協働対象者】 学校長の裁量が基本、校長会で紹介する。(指導室)</p> <p>【担当推進委員】 委託事業では、単価、プログラムが決まっており採用するかどうか。(清水) 予算にかかわるものには調整要。可能な内容から協働事業が展開されることを望む。(内海)</p> <p>校長会で推進する役割が、教育委員会の立場であるとすれば、協働事業として十分に成り立つと思う。文科省の提唱する「生きる力」の養成に不可欠なので、指導室は単に校長の裁量と突き放すのではなく、全市的に推進してもらいたいと思う。(百瀬)</p>					

8 . 協働推進会議 の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CAP プログラムについては、一部の学校現場で実施された実績もあり、大変意義のある事業と考えることから、協働事業として進めるべきである。</li> <li>・ 協働対象者は各学校であるが、協働事業実現のために教育委員会としても後押ししてほしい。その一環として教職員研修にも取り入れてほしい。</li> </ul>
9 . 具体的に検討 を要請する 事項	<p>協働事業として推進するため、次の点について検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導室所管の教職員研修での事業化</li> <li>・ 各学校現場で事業化するための支援（学校長への紹介など）</li> </ul>

1. 事業名	<b>ホームファーマー制度を支援し、「地産地消」「有機農業」を推進するための基盤整備</b>					
2. 提案者	NPO法人ラブサポートセンター					
3. 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市が始めるホームファーマー制度により生産される農作物の流通・生産の支援・PRの面から支えるしくみを構築することで、ホームファーマーが定着しやすい環境をつくること。</li> <li>・ これを通じ、大和地域での「地産地消」「有機農業」が推進されること。</li> </ul>					
4. 事業の内容	<p>1) ニーズの調査 ホームファーマー、有機農業者等を対象とした、生産物や援農のニーズを検討する。既存調査のレビュー、必要であれば、ホームファーマー希望者へのアンケートなどを行なう。</p> <p>2) 支援のしくみの検討 上記の結果を踏まえ、必要な仕組の提案をおこなう。この中で、インターネットをお店とする、生産物の流通のしくみである、「Loves 元気やさいネット・やまと」のシステムを再検討し、必要な改善を加え、新たに就農するホームファーマーの生産物の流通の場、農繁期の草むしりなどの農家の仕事を支える人の輪作りのしくみとしての可能性を検討する。</p> <p>3) ホームファーマー支援のしくみの提供 流通や援農のしくみの実現のために必要な対策を協議のうえできることから実施する。</p>					
5. 市に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一連の活動を検討するための関係者による検討の場の設定。</li> <li>・ この活動を広く市民に呼びかけ、賛同者を拾い上げること。</li> <li>・ この活動を推進するための技術的支援（農業技術）行政的検討支援（法律や慣行の知識など）を頂くこと。</li> <li>・ 平成 17 年以降の必要な施策の検討。</li> </ul>					
公開 検討会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める必要がある	実現することが難しい	その他(検討すべき内容を含む)
	事業提案者					
	協働対象者				農政課	
	担当推進委員				内田(哲)	内田(俊)
7. コメント	<p>【協働対象者】 大和市では農地法上30a以上の土地がないと農業ができない。県の認定も必要になる。(農政課) ホームファーマー(100㎡を一区画として)では販売ができない。(農政課)</p> <p>【担当推進委員】 残念ですが法律の壁がのり越えられない。たくさんのニーズがあれば特区の申請もありうるがそこまではということであった。(内田俊) 農作物の販売を目的としない事業、農業体験や実習などを目指しては。(内田俊)</p>					
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提案された仕組みづくりは、法律の壁がある。</li> <li>・ 今回、提案は取り下げられたが、都市型農業政策として農業を理解してもらう場づくりは重要であることから、制度上可能な活動（農業体験や実習など）を企画した協働事業の提案が、今後出てくることを期待する。</li> </ul>					
9. 具体的に検討を要請する事項						

1. 事業名	<b>大和市男女共同参画に関する市民意識調査</b>					
2. 提案者	大和市 市民活動課					
3. 事業の目的	平成13年度に作成した「やまと男女共同参画プラン」による「第1次実施計画」が平成17年度に計画期間が終了するため、新たに平成18～22年度を計画期間とする「第2次実施計画」を作成する必要性が生じている。事業の実施により、これまでの第1次実施計画の成果を評価すると共に、第2次実施計画作成の基礎資料とする。					
4. 事業の内容	住民基本台帳から16歳以上の市民3000人を抽出 返信用の封筒とあわせ20問程度の質問用紙郵送 回答を電算処理及びパソコンによりデータベース化 データの解析					
5. 地元大学に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問項目の精査</li> <li>・封入、発送作業</li> <li>・回収（開封作業、回答用紙の整理）</li> <li>・回答データの入力</li> <li>・データの解析</li> </ul> 上記事項について、市との協働作業としたい					
公開 検討 会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める必要がある	実現することが難しい	その他(検討すべき内容を含む)
	事業提案者					
	協働対象者					
	担当推進委員	熊谷、河崎	藤田、渡辺			
協働対象者は当日欠席だが、協働の意向は確認されている。						
7. コメント	<b>【担当推進委員】</b> 今後の経過について公開性を高めシステムづくりにも貢献して下さい。(河崎) 協働の相手である聖セシリア女子短期大学は協働を合意しているとのことだが、公開プレゼンにも本日の公開検討会にも参加しておられない。公開の場には共育ちの要素が大きい。今後「協働する」という意味をより深く理解していただけるような努力が必要です。(推進委員担当者一同)					
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会実験として行政から提案されたことは意義があり、評価している。協働事業として進めていただきたい。</li> <li>・しかし、公開検討会等に協働対象者が参加しなかったことは、今回行政提案についての明確なルールがなかった中ではやむをえないが、協働のあり方を考えると疑問が残る。</li> <li>・このため、協働事業として進めることについて協働推進会議の中で意見が分かれたことを補足しておく。</li> </ul>					
9. 具体的に検討を要請する事項	協働事業として進めていただくにあたり、次の点について検討いただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政提案のルール化</li> <li>・協働事業について行政職員及び関係者の認識を深めること</li> </ul>					

1. 事業名	<b>市民主体の（仮称）市民活動センター運営事業</b>					
2. 提案者	大和市 市民活動課					
3. 事業の目的	「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」第9条に基づき設置される（仮称）市民活動センターが、市民、市民団体、及び事業者が行う社会貢献活動を支援するための拠点として、充実した機能を備えていくことを目的とします。					
4. 事業の内容	協働の拠点の機能については、現在準備会において検討中です。 【現在までで、検討されてきた拠点のイメージ】 多様な市民・市民団体・事業者による市民活動をさらに活発にするための事業 これから活動しようとする市民や事業者への情報提供や支援事業 新たな市民活動やNPOを創出するための事業 協働事業を拡大・充実するための事業 多様な拠点をネットワークする事業					
5. 市民に期待すること	市民の自主的で積極的な参加により、市民活動の現場に即した拠点運営を期待する。市民活動の課題や経験などのノウハウを活かした、現場主義の拠点としてほしい。 また、新たな市民活動の育成も期待する。 <u>市民の役割</u> ・機能の検討及び施設の運営 <u>市の役割</u> ・施設の提供 ・運営に係る費用の一定の負担					
公開 検討 会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める 必要がある	実現すること が難しい	その他(検討す べき内容を含む)
	事業提案者					
	協働対象者		拠点準備会			
	担当推進委員		渡辺、藤田、 河崎、熊谷			
7. コメント	【協働対象者】 1ヶ月に何回かのミーティングを拠点となる場所で行っている。(仮称)市民活動センターは10月から仮オープン、来年1月にオープンの予定。 まだ人数が少ないので、この機会に参加する人を拡大したい。(拠点準備会) 【担当推進委員】 市と市民が試行錯誤をしながら進めて来たものがようやく実現の段階に入った。 その意味ですでに協働になっている。委員としては市民活動団体に公募しさらに協働が進んでいくことを期待する。(渡辺)					
* 公開検討会 後の経過	・2回準備会を開催し、センター開催に向け準備が進められており、8月15日からは、協働の拠点運営委員会の委員の募集を開始している。					
8. 協働推進会議 の意見	・社会実験として行政から提案されたことは意義があり、評価している。 協働事業として進めていただきたい。					
9. 具体的に検討 を要請する 事項	協働事業として進めていただくとともに、次の点について検討いただきたい。 ・行政提案のルールづくり					